

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791100029		
法人名	有限会社介護サービスやんばる		
事業所名	グループホーム国頭		
所在地	国頭郡国頭村字辺野喜26番地1		
自己評価作成日	令和 2年 1月27日	評価結果市町村受理日	令和2年 5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=4791100029-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和2年 3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム国頭は、やんばるの自然に囲まれ旧小学校辺野喜分校跡を改装し改築して出来たグループホームで、穏やかな時を過ごせる環境にあります。入居者、地域、職員の3本柱で地域に溶け込み、支え支えられる関係を作り、開かれたホームを目指しています。事業所に看護師を配置し、診療所の医師の協力のもと、日頃の健康管理を含め、緊急な事態にも対応できる体制を取っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2018年、村の分校跡地利用の公募に地域貢献として応じ設立された村内初のグループホームである。開設当初から自治会に加入し、地域の祭りや清掃等に参加し、住民と日常的に交流している。交流室を地域に開放して台風時の高齢者の避難受け入れや地域交流事業に活用し、チャリティ囲碁大会等を開催している。利用者は日常的に散歩や買物に出かけ、地域の行事に参加している。ドライブでは季節の花見や利用者の自宅訪問、馴染みの場所への故郷訪問を行っている。看護職員が利用者の日々の健康を管理し、訪問診療や通院時の情報提供等、利用者が適切な医療を受けられるよう支援し、介護職員と連携して安全な服薬支援に努めている。入浴前の足浴で足の状態を観察し、入浴後は保湿クリームを使用する等、細やかなケアを行っている。リビングには利用者専用の冷蔵庫があり、自由に使用されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に理念について説明している。年度初めのミーティングにて理念を踏まえた本年度の目標を決め、取り組んでいる。	理念は、開設時に地域密着型サービスの意義をふまえて管理者が作成し、職員には採用時に説明している。年度初めのミーティングで実践状況を振り返り、年度の目標を設定している。今年度は、管理者の交代があり、新体制の下、全職員で話し合い自分たちの声や言葉を反映した理念へと見直すことが提案され、その検討が課題となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の区長、老人会長、成人会長と顔の見える関係が出来ている。管理者は、区の夏祭りの実行員のメンバーとして参加し、自身の音楽バンドも参加し演奏で盛り上げている。準備作業、バザーの応援や利用者全員、スタッフも参加して地域の人々と交流している。また、グループホームの交流スペースを開放して地域の人々が利用できるように案内している。台風災害時の避難場所として受け入れていて、周知している。	区の自治会に加入し、祭り等の諸行事には、職員が準備や音楽バンドとして参加し、区長等3名が運営推進会議の委員である。区民を対象に台風時の避難を受け入れ、認知症や介護保険等の相談にも対応している。カラオケ設備のある交流室を地域支援事業のレク活動に提供し、地域交流事業としてチャリティー囲碁大会を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険申請前から、認知症の家族の方の話の聞き手になり、包括支援センターと連携を取りながら、介護保険サービスに繋がる前に、ご本人をボランティアとして受け入れ、環境整備、おしゃべり相手、カラオケ交流など利用者様のストレスを引き出せるように支援している。身近な介護相談場所として認知されるように福祉祭りやグループホーム推進会議、介護支援専門員連絡会等で情報提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、ホームの活動や事故報告等を行い、参加者の皆さんからの意見を参考にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議は年6回開催し、利用者と行政、地域代表は毎回参加している。知見者の参加がなく、家族は2回の参加である。会議では、活動状況や事故・ヒヤリハット等を報告し、意見交換を行っている。議事録は、事故とヒヤリハットの混同があり、活動状況と意見交換の重複や未記入の月も見受けられる。議事録の委員への配布や公表も行われていない。	運営推進会議の議事録は、毎回、会議内容を確認して作成するとともに、事業所において家族等訪問者が自由に閲覧できるよう公表が望まれる。会議に家族や知見者が参加しやすい工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に村役場職員が2名参加されており、その方から村の状況を聞き、協力関係が取れるようにしている。	運営推進会議には、村福祉課や地域包括支援センター職員が参加し情報交換している。地域包括支援センターとは、各種申請手続きや待機者情報等で、日頃から連携し、協力関係を築いている。福祉課からは、研修や村主催の福祉祭りと敬老会の案内があり、利用者と一緒に参加している。村の家賃助成事業があり、利用者の負担軽減に反映されている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方針を、入職時に説明している。玄関などは夜間のみ施錠している。ミーティングなどで身体拘束についての勉強会を行ない、具体的な行為を正しく理解できるようにしている。身体拘束についての疑問が出た場合は、運営推進会議の身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会で話し合うことになっている。	身体拘束をしないケアの方針を利用開始時にリスクも含めて家族に説明し、玄関等は施錠せず拘束しないケアを実践している。マニュアルや身体拘束等の適正化のための指針を作成し、身体的拘束等の適正化検討委員会を運営推進会議で開催しているが、「拘束はゼロ」の報告に止まっている。検討委員会の議事録はなく、勉強会も実施しているが、記録がない。	身体的拘束等の適正化検討委員会 は、拘束の有無にかかわらず3か月に1回以上の開催と議事録の作成、及び職員への周知が望まれる。さらに職員研修の年2回以上の実施と記録の作成にも期待したい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時やミーティング等で虐待についての勉強会を行ない、虐待のないケアに取り組んでいる。	高齢者虐待防止マニュアルが整備され、職員採用時は、「身体拘束禁止や虐待防止」について伝えるとともに、「虐待の種類、丁寧な話し方、聞き方、対応」等が記載されたコンプライアンスルールをトイレに掲示し、職員に周知している。看護師と計画作成担当者を中心にミーティングで職員勉強会を実施しているが、記録は作成されていない。	虐待防止の徹底に関する職員研修の定期的(年2回以上)な実施と記録の作成が望まれる。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の希望があれば、自宅からテレビを持ち込み居室に置き、好きな時に見れるようにしている方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を説明し、同意後、利用契約書にて契約を行なっている。わかりにくいことがないか、その都度確認しながら契約に至っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加してもらい、意見や要望をもらっている。入居者が意見を言いにくい時などは居室や事務所にて話を聞き、プライバシーに配慮し話せる雰囲気作りをしている。意見箱はあるが利用はまだない。	利用者や家族からの要望等は、運営推進会議や面会時、病院受診時等に聞き、利用者には個別に居室や事務室等で聞いている。利用者の「帰りたい」や「家が気になる」等の声に毎月、ふるさと訪問を実施し、個別に出身地域への外出を支援している。家族からは感謝の声が殆どであるが、「電動式ベッドにして欲しい」との要望に対応した事例がある。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が管理者へ意見や提案が言いやすい環境を心掛けている。また、ミーティングや日頃の業務での意見も検討し反映できるようにしている。	職員の意見は、毎月の職員ミーティングで聞き、管理者は何時でも聞く体制をとっている。職員からの「外出計画や役割分担の提案」や「必要な位置に水道の蛇口を取り付けて欲しい」、「交流室にカーテンの設置を」等の意見に対応し、業務の効率化や環境整備に反映させている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格者の資格手当などの整備に努めている。また、職員の勤務希望に応じて調整している。	就業規則が整備され、休暇や給与、時間外や資格手当等、労働条件が規定されている。健康診断は、昼夜の勤務形態に関わらず全職員、事業所の補助を受けて年1回の実施となっている。年次有給休暇は、計画的に取得させ、勤務シフトは希望を聞いて作成している。資格取得や各種研修への参加は、勤務配置や勤務調整を行って参加できるよう配慮している。	職員の健康診断は、労働安全衛生法に基づいて、夜勤を定期的に行う職員については、年2回の実施が望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、ミーティングで1つのテーマを決め、勉強会を行なっている。講演会や研修の案内があるとすぐに職員に周知し、参加希望者がいると勤務調整し参加させ、研修時間分の時給も支給している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	火災報知機の登録をお願いし、緊急時でも助け合えるようにし、消防訓練では毎回参加してもらっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は、本人が不安なことや要望等を聞き、安心して暮らせるよう努めている。日々の生活の中で買い物へ行きたい方がいれば行けるように支援している。また、居室に仏壇や馴染みの物を置きたいと希望する利用者には、対応できることを伝えている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が面会の際に要望を聞く。「毎日洋服を着替えさせてほしい」「洗面台の鏡の位置を直してほしい」などの意見にすぐ対応し、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況を把握し何が必要か見極め、他のサービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	天気の良い日は散歩に行き、花を摘んで生け花にしたり、散歩後、玄関先ベンチで景色を見ながら歌を歌ったり体操をしたりして関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでのイベントなどで家族を招待し一緒に食事を楽しんだり、歌ったり踊ったりし同じ時間を共有することで共に良い関係作りができるように努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事や老人会の集まる催し物に参加し、馴染みの人との交流ができるように支援している。散歩やドライブでは利用者の馴染みの場所を通り、知り合いがいれば話ができるように支援している。	利用者の馴染みの人や場については、本人や家族、地域のケアマネージャー等からの情報で把握している。利用者は、定期的に出身地域をドライブして自宅や家族が入所する施設を訪問し、馴染みの商店に立ち寄りしている。隣接のデイサービスを利用する知人や出身地域の人と交流し、親戚や友人等の訪問を歓迎して関係が途切れないよう支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	天気の良い日は皆で散歩に行けるように支援している。仲の良い利用者は近くの席になるように配置している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した利用者家族が、その後も近くへ来た際は立ち寄ってくれたり、家庭菜園で育てた野菜をホームに差し入れしてくれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、自宅での様子を把握し、日々のサービス内容に取り入れるようにしている。家族、親戚、友人面会時、家族の思い、入居者本人の思いの把握に努めている。集団活動を好まない利用者は無理に活動に参加させず本人の時間を持てるようにしている。内地に住んでいる家族の場合、折を見て家族にホームでの様子を電話で連絡。帰省時は一緒に過ごせるようにしている。	利用者の思いや意向は、外出時や居室等で1対1になった時に聞いている。利用者の殆どが意思表示でき、「妻と暮らしたい、帰りたい」や「カラオケがしたい」、「部屋で過ごしたい」等の声を介護計画の外出支援や日中活動に反映させ、支援につなげている。「子どもに会いたい」との要望には、電話を仲介したり、子どもの帰省時に一緒に過ごせるよう宿泊を受け入れて利用者の思いに添って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、以前居た施設からの情報提供を参考にしている。本人、家族、親戚、友人の面会時の会話の中から、また、地域の方との交流時、情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLの現状を日々の生活から把握し、介護内容を臨機応変に変更している。体調に変化あり食事にむせがある時、食事形態その時に合う様にし、良くなると元に戻し現状に合う努力をしている。パズル等、複雑な物から簡単な物、その方にあった物を提供することで達成感を持たせる様にしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度の定例会で利用者の介護計画を共有している。ケア変更時はミーティング時で確認を行っている。	担当者会議は利用者や家族、計画作成担当者と看護師が参加し、利用者の意向を確認して介護計画を作成している。計画は長期目標を1年、短期を半年と設定し、毎月ミーティングで利用者毎に支援状況について意見を出し合って介護計画を確認している。モニタリングは6か月毎に実施し、介護計画の定期見直しは1年を基本とし、状態変化時は随時見直すとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、入居者の発する言葉で記録をする様努めている。行っていることだけでなくサービス内容に沿った記録にするよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	幻聴がある方は、用件を聞き、傾聴、家族に電話し対応している。それでも幻聴がおさまらない時は本人の意向を聞き、「どこに来てと言っている」という場合、その場所まで行き、焦燥感の解消に努めている。入居により空き家になり自宅が気になる方は本人の希望により自宅に行ける様にしている。家族が遠方で買物に行けない方は、希望時買物に行けるように努めている。内地にいる娘が母親と一緒に過ごしたいと希望。同室で過ごせるよう場所の提供を行なうことにしている。(年末年始)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にヤギ小屋があり、散歩のコースになっています。ヤギ小屋の主とは顔なじみになり、「仔ヤギが生まれたら、見に来てね」とか、ホームの利用者みんなが来ることを快く思ってくれて有り難い。区の行事にも参加し和やかに交流している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回訪問診療。専門医が必要な場合は専門医を紹介してもらい家族の協力を得て受診できる様、いつでも指示を受けられるように努めている。	利用者のかかりつけ医は診療所の医師で、全員月1回の訪問診療を受けている。専門医への送迎は家族対応としているが、管理者が送迎することもある。通院時は、利用者の生活の様子や現在の様子、今後の相談について記載された情報提供書を看護師が作成して持参させ、医師からは診療情報提供書で回答があり、連携して支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かが変と思ったり普段と少し変化があったら、看護師に報告し指示を仰いでいる。食材により刻んだり、飲み込みが悪い場合、看護師に報告し食事形態を変更したりしている。入浴時、皮膚の状態に変化があった場合、看護師に報告し指示を仰いでいる。昼夜、寝ていることが多い場合も報告し、薬の調整を行なっている。施設看護師は訪問診療時、診療所の医師の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ホームでの様子を情報提供している。入院中は訪問し、状態を把握したり必要に応じケースワーカーを通じて状態確認を行なっている。家族が内地の場合は、家族の理解を得て説明を聞き入院手続きや承諾書の記入等を行なっている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時、必要時(重度化した場合、普段の会話の中から)看取り指針を説明し本人、家族の意向を確認している。少しずつ機能低下していく入居者に対して風邪症状時、喘鳴、むせこみや飲み込みが悪くなった場合、現状のままでもいいのか確認し訪問診療医と方針の確認を行なっている。	「重度化した場合における(看取り)指針」を作成し、利用者と家族に説明して意向を確認している。事業所の現状として夜間等の緊急時対応体制がなく、看取りは実施されていない。計画作成担当者とは看護師は前職場で看取りを経験しており、事業所としては医療体制の確立を行政に要望し、医療との協力体制を整えば看取りも実施したい考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時、カンファレンスを行ない、振り返りを行なっている。年に一度、ミーティングにて緊急時の対応マニュアルを読み合わせし共通理解をしている。その際、施設看護師指導のもと応急手当訓練を実施している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回、火災・避難訓練を実施。通報装置、スプリンクラーを設置している。区長、近隣の方も火災通報装置に登録し協力をとれる体制を整えている。	自動火災通報設備等の備品が設置され、避難経路も確保されている。消防署に届けて訓練を1回実施し、区長も参加している。消防署員からは隣接する山の火事に備えた建物管理に対する助言がある。台風時は避難所として区の高齢者を受け入れている。火災発生時以外のマニュアルや食料品等の備蓄が整備されていない。	昼夜を想定した年2回の避難訓練を実施するとともに、水や食料品等の備蓄が望まれる。地震や津波、台風等の災害対応マニュアルの作成に期待したい。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を自分の立場に置き換え接しケアしている。おしゃれ好きな入居者は居室から出て来る際は整髪鏡を確認してもらったり、入浴後は女性職員が眉書き対応している。入居者の名前は「さん」を付けて呼ぶ。声掛けは入居者が聞き取りやすいようにゆっくり話すように心がけている。	プライバシー保護マニュアルを整備し、入浴と排泄の介助は同性介助を主体として、声かけに努めている。利用者の誕生日には昼食に赤飯等を提供して皆で祝い、指定された場所での喫煙を認めている(現在、喫煙者はいない)。個人ファイルは外部から見えない場所に保管されている。	個人情報保護方針と利用目的の掲示が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者とのコミュニケーションを密にし、利用者が遠慮なく自分の希望が言える環境づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースを大切に、気持ちに寄り添いながら落ち着いた状態で過ごしていただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際のおしゃれ着を一緒に選んだり、起床時、午睡後は髪や衣服の乱れを整えている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見た目も美しくバランスの良い食事作りを心がけている。利用者が菜園で育てた季節の野菜を利用者と一緒に収穫し、つくろい、それを調理している。食材の皮むき、種取りも一緒にやっている。お膳拭き、テーブル拭きも一緒に行なっている。	調理担当の退職で、ご飯と汁物は職員が作り、昼食のおかずは地域の食堂に委託し、朝と夕食は冷凍食品を活用している。差し入れの野菜や菜園のネギ等は夕食の食材にしている。食卓に花を飾り、セットしたお膳は毎食写真に撮っている。弁当持参の職員は利用者と一緒に食べ、1人は夕食を試食している。もやしのひげ取りや下膳に参加する利用者がいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせてアチビー・キザミで提供している。お茶・水を飲まない利用者には玄米を提供している。外で作業を好んでやられる利用者はペットボトルを準備し水分補給できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし必要な場合は介助にて対応し毎回実施している。舌苔のある人は酢うがいや舌ブラシを使用し磨いている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ズボンの上げ下ろしの難しい利用者に対して、できるところまでは見守り、その後介助にて対応している。排泄チェック表を確認し声掛けしトイレ誘導している。	排せつについては1人以外は全員自立し、トイレでの排泄時は戸を閉めて外で待つ対応をしている。温水トイレに不慣れな利用者には、その都度「温かい水が出ますよ」と声かけしながら支援している。おむつ使用の利用者は、チェック表で排泄パターンを把握し、失敗した時の本人の「ごめんね」という羞恥心に配慮し、本人の意向も確認して、夜間でも3時間おきにトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・外の散歩・手すりを使用時のスクワット運動を取り入れ実践している。食事を工夫、便通をよくする食材を使用し調理している。それでも便通のない場合は座薬を使用する。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の健康状態や予定を考慮し入浴の声掛けを行なっている。利用者から入浴の希望があれば予定になくても入浴できるように支援している。入浴後は保湿クリームや乳液を使用している。	入浴は週3回の午前を基本とし、1対1の同性介助で対応している。希望があれば予定の日時以外にも応じ、好みのシャンプーを持参する利用者もいる。脱衣室は冷暖房完備で椅子を準備し、入浴前に足浴を実施して足の状況をチェックしている。爪は定期的に切り、入浴後に保湿クリームを塗ることで利用者の皮膚の状態が改善している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良い生活リズムができるように毎朝全員で庭を散歩し、午前午後の2回全員で30分かけ体操を実施。その他にパズルや風船バレー、読書、畑作業など利用者がそれぞれ好きなレクや活動を楽しんで出来るように日中の活動を支援、夜間ぐっすり眠れるようにしている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理を看護師が実施し介護職員は体調変化や排便状況を観察記録し情報を共有している。利用者ごとに服用薬情報をファイルし職員間で情報を共有している。	薬剤師が名前と日時を記載して持参した薬を、看護師が管理している。看護師は朝・昼・夕・寝る前と色を変えて日々の配薬をし、介護職員が飲ませ、飲み込むまでを確認している。処方箋はその都度介護記録と看護ファイルに綴り、薬の効能については看護師が説明して職員間で情報を共有しているが、服薬支援マニュアルは整備されていない。	安全な服薬支援を継続するためにも、マニュアルを整備したうえで、マニュアルに沿った支援が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の満足感達成を目標に、興味のある事、趣味などを中心に支援している。職員が共有し申し送りなどで作業などが途切れないようにしている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴れの日には毎朝散歩へ出かけている。買い物希望などがあればその都度対応している。季節の花見など良い所の情報があれば計画し見物に行っている。	利用者は、朝は散歩をしながらヤギを見たり、花を摘んだりし、帰ると隣のデイサービス利用者と一緒に花壇の前で懐メロ等を歌っている。買い物支援やドライブ等を介護計画に位置づけて実施している。ドライブでは自宅訪問や花見、外食等に出かけ、全利用者が年1回以上の自宅訪問をしている。行政主催の敬老会に全員が参加し、区の新年会や豊年祭に参加する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	年間行事で計画しているショッピングセンターでの買い物では一人一人の希望に応じたやり方で自ら選び購入できるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年4月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば深夜でなければすぐに対応し、深夜の場合は夜遅いことを説明し翌朝に電話している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には散歩後、みんなで収穫した野菜をつくらったり、みんなで歌を歌ったりできるようにベンチと机を設置。屋内にはリビング以外で読書できるように机とイスを設置したり、利用者が制作したその季節のちぎり絵などを飾って季節を感じつつリラックスできるように工夫している。	デッキと花壇の前にベンチと机が置かれ、利用者が花を見ながら歌が歌える状況になっている。リビングには利用者用の冷蔵庫があり、皆が自由に使っている。廊下の壁に絵画を飾り、相撲の番付表(地元に縁のある力士がいる)も貼られている。デッキ等で新聞を読む利用者がおり、交流室にはカラオケ機材もある。浴室の漂白剤は見えないよう工夫することに期待したい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者は隣同士になるように席を配置している。一人で集中して読書ができるように読書専用のイスと机を設置している。外での作業が好きな利用者が休めるようにベンチと机を設置している。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはこれまでに使い慣れた愛着のある物を使用していただき、利用者が居心地よく安心して生活できるように支援している。	居室の窓は山に面しており、季節が感じられる環境にある。利用者はそれぞれに時計やテレビ、ラジオ、寝具等を持ち込んでいる。家族と一緒に撮った写真や応援する力士の写真等を飾っている利用者もいる。ナースコールは必要な利用者4名位の居室には設置しているが、全居室に設置することに期待したい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が自力で出来ることは見守り、安全に考慮し対応している。ADLが低下し、今まではできていたことができなくなってきた利用者は職員皆で情報を共有し対応している。		